平成３０年度　伊万里市立青嶺中学校　校内研究の概要

１　研究主題

「学ぶ意欲をもち、主体的・対話的に学習する生徒の育成」（３年次）

～アクティブ・ラーニング実践の検証～

２　研究について（研究主任の思い：生徒が主体的に動く授業・絵本の用にわかりやすい研究をめざして）

（1）教師全員のミッション：すべての生徒にわかりやすい授業を提供するための授業づくりと教室環境づくりのユニバーサルデザインをすすめる

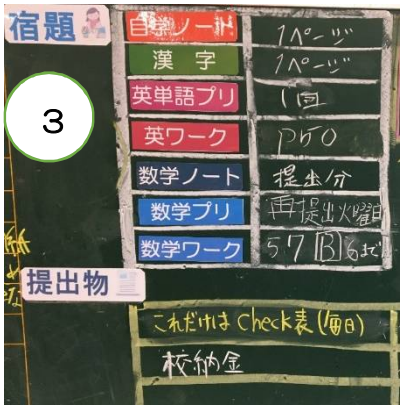
ユニバーサルデザインとは？

学年の違いや発達障がいの有無などにかかわらず，すべての子どもにとってわかりやすい授業，居心地のよい学級であるようにデザインすることと定義します。

左の写真①のように、１時間の**「めあて・目標」と「流れ」**が示され、**言語活動（主に書く・話し合う活動（※アクティブ・ラーニング）**と、小単元・単元ごとに**「まとめ」「ふりかえり」**がある授業を**全職員で統一して行う**ことが、授業づくりの第一歩です。これら「授業のユニバーサルデザイン」を進めることで、見通しを持たせ、「何をする」のかでそわそわする生徒には有効です。また、**１つの活動にかかる時間の見通しも持てるので、集中力が持続します。**１時間の授業の中でできるかぎり言語活動を組みこみ、生徒が主体的に・対話的に取り組むことができるようにする。このことが研究主題へとつながります。

生徒が帰宅し、１日をふり返る際に、この教科では今日『〇〇を勉強した』と具体的に思い返すことができるようにする。この授業を構造的にデザインすることは、写真左の昨年度佐賀県の全教師へ配布される予定になっているリーフレット**『授業づくりのステップ』写真②**にもふれられていますので、ご参照ください。

さらに、教室環境のデザインについては**全面黒板周辺に掲示物をしない、もしくは隠す**ことで、授業中の板書を書く時、説明を聞く時など前を向くときに、**刺激量調整**を行います。全面黒板にも、張り紙をしたり、その日の目標を書いたり、日付を書いたりせず、背面黒板にまとめる。また、提出物・宿題とその期限を一覧でみられるように、背面黒板を学年で統一した仕様にすること（写真③）で、すべての子どもにとって学習する上で好ましい環境が完成します。その環境整備を全教室全学級で行いたいです。



⑵ 授業改善部のミッション

～話し合い活動プレートの改良と教師の活用マニュアル作成～

アクティブ・ラーニングの手立てとして、昨年度開発し、実践した話し合い活動プレート（右写真）。これを前年度は全教室に配備した。全教科のグループ活動（３～４名）に対応し、教師が板書する「テーマ」「話し合う工程」に沿って、役割を決定し、話し合い活動をスムーズにし、話し合いの中身に集中できることはもちろん、一人一人が必ず意見を言うこと、班の意見をまとめること、発表することなどがメンバーに課せられるため、「役割があるので、しっかり行うことが出来た」「話し合い活動で周りの人の意見が自分の意見の参考になった」「自分の意見の幅や見方の幅が広がった」など肯定的な意見があげられた。これを昨年度末に実施したアンケート結果を参照しながら、生徒の声や使い勝手を意識して、**話し合い活動プレートの改良・改善を行う。**（前年度のアンケート結果については、別紙２９年度のまとめを参照する。）また、**教師が板書する「テーマ」や「話し合う工程」と時間配分については、統一的に行われていなかったため、その点についてもマニュアルを作るなど、より授業で活用できるツールにしていくことが重要である。**

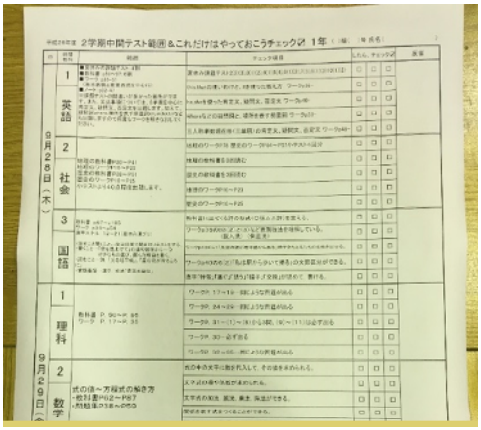
授業改善部の実現したい学びの姿

生徒達が仲間と共に学びを深め合っている姿

教師の説明を聞いているだけでは、生徒は思考しません。自分たちで課題に取り組み、考えて、仲間と共に、学び取ってほしい。

⑶ 基礎学力向上部会のミッション

～「これだけはやっておこうチェック」の運営と改良、自学ノートの取り組みについて現状把握と見直し～



学習の定着を図る指導の工夫や徹底や学習習慣・家庭学習の改善を、家庭と連携して生徒の進路実現に向けた基礎学力の向上を図りたいと考えている。そこで、定期テスト毎にテスト範囲票兼徹底項目のリストである「これだけはやっておこうチェック」を配布し、最低限おさえておかなければならない基礎徹底項目を点検させ、計画的な学習を支援することを行っていた。これについて、**前年度末アンケート結果をもとに、生徒の視点を取り入れ、より活用率の上がるものにしていく。**また、**自主学習の取り組み方について現状を把握し、小学校とも連携をしながらよりよいやり方はないか模索し、夏休みの校内研で提案できるように、自主学習ノートの取り組みを充実させていきたい。**

基礎学力向上の実現したい学びの姿

計画表やチェック票を確認し、自発的に学習を進める姿

ツールを活用し、自分に必要なことを考えながら時間配分を考えたり、計画を実行したりしながら、自己実現や進路目標のために努力する習慣をつけてほしい。